

# 第12回国土交通中部地方有識者懇談会

## 「まんなか懇談会」

( 詳細議事録 )



平成17年9月28日（水）  
名古屋銀行協会5階大ホール

### 須田 寛 座長（東海旅客鉄道（株）相談役）

万博が終了いたしまして、大変成功裡に終わったことを心から喜びたいと存じます。

この提言ないしこの懇談会は、ポスト万博と申しますか、万博が終わった後一体この中部をどういうふうに持っていかうかということについてのメッセージを発信するというございだったので、今日のこの時期に開かれたことは非常に意義深いと思います。

ご承知の通り、万博は成功いたしましたけれども、それで終わりでは意味がないわけでございます。万博開催中に大勢の方々が名古屋に集われ、環境というものを皆で考えられたということの意義は非常に大きいわけでありまして、これを次につないでいかなければいけない。「万博の心を中部にいつまでも」というキャッチフレーズをいつも申し上げておりますが、この心は永遠に残らなければいけないと思っております。また、それが万博開催地としての責任ではないかと思っております。

### 桑田宜典 委員（（財）岐阜県県民ふれあい会館理事長）

国土全体の中で圏域としての中部をどう捉えるかということは非常に重要なテーマである

今後、中部をどういうふうに捉えていくか。そして、たとえば近畿や北陸地域の皆さんが国土をどういうふうにしていかうか考えていらっしゃるのか。また、この「まんなか懇談会」でとりまとめたこととの関連づけはどうなっていくのかといったことを危惧いたしております。よその圏域のことだから関係ないということではなく、やはり日本全体としてどう考えて、そしてその中で中部地方をどう考えていくかということが非常に重要になってくるのではないかと思います。

将来像の実現に向けて、施策の選択と集中が重要な課題

提言に書かれている将来像が実現されれば素晴らしい地域になるわけでございますが、これからこの地域に住んでいる者がどのように対応していくのか、何を重点としてやっていくのかということが大きな課題であろうと思います。非常に財政的にも厳しくなっている中で、この課題をクリアすることが非常に重要になってくると思います。内容が非常に幅広いわけでございまして、そういう中ではまさに選択と集中が求められる。これをどのようにクリアしていくかということが非常に大きな課題になってくるのではないかと思います。

農山村を支える施策を重点的に取り組まなければ都市部と農村部の均衡ある発展は望めない

一方で、都市部と農山村の近郊ある発展が非常に重要になってくると思います。特に食糧危機が間違いなく到来するわけでございまして、まさに農山村を支える人たちが非常に少なくなっているわけでございます。どうしても都市に人が集中していく。ですから、農山村を支える施策に重点的に力を入れていかなければ、本当の均衡ある発展はできないのではないかと思います。している次第でございます。

中部に住まう方々が提言の中身をしっかりと実感し、自分たちが担うことは何かということを実際に考えていただくことが将来像の実現には不可欠

せっかく提言をするわけですから、住んでいる人たちが自分たちは何を役割分担すべきか、あるいは住んでいる者が住みよくなるためにはどうしたらいいかということを実際に考えてい

ただけるようにしなくてはいけないと思います。住んでいる人たちが実感として捉えていただかないと、せっかくの素晴らしい提言の内容を実現することが非常に難しくなってくるのではないか。その点を一番危惧いたしております。

提言そのものは本当によくまとまったということで、まさにこの内容が50年あるいは100年先に本当に実現をされて、世界の中部、そして安心して住める地域として発展していければと思っている次第でございます。

### 谷岡 郁子 委員（中京女子大学学長）

課題を言いつ放しにせず真剣に捉えていくというスタンスが打ち出されおり、非常に「美しい」提言としてまとまっている

私が褒め言葉を出す場合には、「うまい」、「賢い」というのがあって、それより良い場合には「強い」とか「すごい」となりまして、最上級は「美しい」という言葉を用いますが、今日、この提言のまとめ方を見て感じたことは、まさに「美しい」と思う提言内容を初めて見たという気がしております。と申しますのは、選択、集中という形で、課題を列挙して言いつ放しにせず、「これからこういうことを念頭に置きながら真剣に考えていく」という姿勢が打ち出されていることで、提言全体に締め込みを与えていると感じます。

万博の成功はアクセス問題に対する地道な取り組みと各機関の見事な連携に負うところが大きい

2000年に愛知万博検討会議で委員長を務めていた当時、実は一番心配していたことは会場アクセスの問題でした。当時、委員長試案として予想来場者数1,000万人超という文字しか私は書き込めなかった。「『超』というのはどういう意味だ」とさんざん訊かれたのですが、「これはアクセス次第であるということでございます」と申し上げた覚えがあります。

結果的には2,200万人が万博に来場しました。成功の陰には、アクセスがどうなっているか、道がつながっているかといった地道な検討の積み上げがあったからであると思います。たとえば今回、JRと愛知環状鉄道、リニモあるいはバスによる連絡といったように交通機関の見事な連携プレーがあったわけです。こういうことがシステムとしていかに構築されたかということの上に2,200万人の入場者が初めて達成されたということだろうと思います。

そういう意味で、国土を作るということは地道な作業であって、なかなか目立たないのですが、万博の成功の陰にはそういう普段からのご努力が大きな成果を挙げたと実感しております。

都市の快適性は単なる設備の充足度だけではなく、実際の使い勝手も含めて評価されている

設備的な面から見ると今回、万博に来られた外国人の方々から「これまで名古屋のことはよく知らなかったけど、結構いい街じゃないか」という声を多数いただきました。一方で、「名古屋は夜が早い」という声もかなりあったと思います。

これは、夜のまちの暗さであるとか地下鉄の終電時刻が早いことといったことへの指摘であると思いますし、例えば、地下鉄の駅や路線は細かくあるにも関わらず、エレベーターがほとんどなくてエスカレーターもついてないところが結構多いというような状況で不便を感じさせ

るなど、現にある設備が非常に使いにくい状態にあったり、活用されない状態のままであるといったことがあると思います。

したがって、今あるものをどこまで使いやすくできるかという視点で見直せば、全く見方や受け止め方が変わってしまう可能性があるのではないかと思います。人々はいろいろな主観の物差しを使うので、何を比べてどうなのだろうという物差しは一概に満足度だけを基準にできないということを感じました。

国土マインドを育む取り組みは既に万博で着手されている。この取り組みをぜひ継続してほしい

万博開催期間中は、モリコロメッセでスタッフとして一緒にやらせていただきました。そのときに感じたことは、まさに私たちが議論してきた“国土マインド”を育成する思い、国土マインドを作っていく事業の萌芽がこの活動の中によく表れていたと思いました。ミュージカルという形をとりながら、いかに土木というものをわかりやすく解説するかというところに工夫が凝らされています。これまでは、「ちゃんと造ってあげればいいんだ。国民にわかってもらえなくてもやるだけやるのだ」というふうは無言でやってこられたわけですが、もはやそういう時代ではなくなっていることに対して、国土マインドを作っていく事業として非常に適切な取り組みが既に始まっていることをまざまざと感じさせていただきました。ぜひこの取り組みを今後につなげていっていただきたいと思ひますし、実は万博の継承という取り組みが既に庁内で始まっていると感じた次第です。

万博の理念を継承し、環境産業のモノづくり首都を体現する拠点整備が必要

この提言概要版のまとめ方はすごくよくできていると思いますが、本編の方はまだ改善の余地があると思っております。「メッセ」、「拠点の整備」、「ロジスティクス・ハブ」といった記述がありますが、この言葉をどういう形で具体的に裏付けるか。これをモデルとして、具体的に実現させるかということがすごく大事になるのだろうなと思ひます。「選択と集中」をやっていくということであれば、ポスト万博としてやっていくことは何か明確にする必要があるのではないかと。

提言に書かれていることを実現していくためには、概念だけをつないでみせるようなことではなくて、やはり拠点がいると思ひます。産業観光の拠点、ロジスティクス・ハブの拠点そして環境メッセというものの拠点が必要であると思ひます。これらを別々に考えるのではなくて、できれば効率よく一体的に考えていただきたい。

新しいアイデアとして私が考えたことを1つ述べさせていただくと、今一番ポイントになるのは、空港の前島整備ではないかと考えております。もちろん空港にはロジスティクス・ハブの拠点ができるわけですがけれども、これと取り引きとを直結させるような、エコマートのような環境メッセを整備できないだろうか。パイヤーが訪れて、そこで取り引きが成立するような場、そして数々の展示がなされているような場、そういう場を作り得るのではないだろうか。

さらにそこへホテル機能やカジノ機能を整備し、たとえばワールドウォッチ研究所のような世界的に環境のモニタリングを行っているような研究所を誘致してみる。これはワールドウォッチとは限りませんがいろいろ候補はあると思ひます。

たとえばWWFなどの環境3団体や世界的なNGOの出先機関、国内外の環境系NPO・NGOなどが集積し、そこで取り引きされている第1次から第3次産業、先端産業に到るあらゆる物品に対して、たとえばエネルギーコストあるいはエネルギー使用量、それから安全性、環境負荷というような幾つかの点からミシュランのように審査、格付けをおこなう。いわゆる環境グッズとか環境製品と言われている物の成果に対して世界的なお墨付きを与えるような第三者機関をそこに作ってしまう。そういう形で、そこに展示されている環境グッズと言われる物はどういう点で環境グッズなのかということが常に審査の対象になり、スクリーニングされながら出ていくことによってお墨付きを与えるようなことも可能なのではないか。

つまり、私が申し上げているのは単なる一例ではありますが、官産学そして市民のパートナーシップの中で、この地域が環境産業のモノづくり首都あるいは環境産業地域としてのモデル先進地域となるような拠点設備を作ることが可能なのではないかと思います。

なぜ私がこのようなことを申し上げているかというと、長久手や瀬戸の会場跡の公園では万博の理念は継承できないと考えているからです。新しい理念を継承してまちづくりをやっていくには、公園では無理であろう。新しい産業を生み出し、新しい都市を生み出し、新しい生活を生み出すようなダイナミックで能動的な拠点が必要であり、そういうことができるのは空港の前島などを中心としたところではないかと思います。

### **箕浦 啓進 委員（（株）ZIP-FM代表取締役専務）**

今回の提言は中部の将来像を具体的にイメージできるものとしてよくまとまった

この提言は全体として大変よくまとまっていると思います。特に、50年先とか100年先に焦点を絞って書いているので、中部の将来像が非常に具体的にイメージできるということで、趣旨にかなったものになったと思っています。

今回の提言のスタートラインは愛・地球博にあり、その愛・地球博が非常に成功裡に終わったことは非常によかったと思います。これによって、これから中部地方に弾みもつきますし、将来を見渡す上でも非常に明るい展望が開けてくるのではないかと思います。

万博の成功は、中部の人々が持っている堅実なマインドが功を奏したといえる

今回愛知万博において非常に成功した点としては、愛知万博のブランド化に成功したのではないかと思います。ブランドというのは何かといいますが、もちろんブランドはそのものの質がよくないといけませんが、いろいろなことがうまく作用したのではないかと思います。

例えば、目標来場者数についてですが、愛知万博が始まる前はどれだけの規模の万博にするかということで大変な議論がありました。当初は目標来場者数2,000万人だ、3,000万人だ、大阪万博に比べてどれだけだと言われていましたが、最終的には1,500万人と非常に控えめな目標に設定した。これがかえってプラスに作用したのではないかという気がいたします。当然アクセスの問題は心配されたわけですが、すべての計画をこの目標値に合わせて作り、収支も1,500万人で採算が合うように設定してスタートしました。開幕当初は5~6万人程度の来場でしたが、次第に人が増えていくにつれ、「会場に行くだけでも大変だよ」とか、「行列がいっぱいできてなかなか見れない」といった声が聞かれはじめ、万博へ行くことの稀少性が非常に

高まっていった。こうして愛知万博についての評判が高まっていったのではないかと思います。

収支についても最終的に100億円程度の黒字が出るのではないかとされています。最終的にこれだけの黒字が出たことで大成功という一因になっているのですが、もし最初から2,000万人、3,000万人として計画を立てたとしたら、おそらく展開が違ったのではないかと思います。そういう点からも、非常にうまくブランド化できたのではないかと思います。

また、名古屋など万博を支えた地域の経済も非常に潤ったのではないのでしょうか。特に一番潤ったのはホテル業界であろうと思います。万博が始まる前は、名古屋はホテルラッシュになるのではないかとされたりもしましたが、不思議なことに大きなホテルはほとんどできせんでした。その結果、ホテルが非常に混んでなかなか予約が取れない。予約が取れないほどの需要があるので、値下げをしなくてもほぼ満室状態であったということで非常にいい業績になっています。

以上のようなことを考えてみますと、愛知万博の成功要因のひとつとしては、この地域の人々が持っているマインドが成功の陰にあるのではないかと感じます。昔から名古屋の人は非常に控えめでして、企業にしても好決算が出て黒字を誇張するのではなくて、むしろ控えめに出すようなところがありまして、愛・地球博を始めるに当たって、むしろ最初は慎重に、控えめにやってきた。それが非常に好結果につながったという感じがいたします。

国内外から注目されている名古屋は、今後さらに国際化が進んでいくであろう

愛・地球博に限った話ではなく、ここ2~3年、名古屋ブームというのか「名古屋が元気だ」ということで名古屋が非常に注目され、よそから人が入ってきています。人だけではなく資本もいっぱい入ってきておりまして、東京資本、大阪資本、さらには外国資本がものすごい勢いで名古屋に入ってきています。名古屋の土地が外国ファンドなどに買われていますし、著名なビルが外国ファンドに買収されています。ものすごい勢いでどんどん外部資本が入ってきて、この勢いは止まらないのではないかと思います。併せて名古屋を訪れる外国人も増えてくるのではないかと思います。言い換えれば、これが中部の国際化ということなのかなと思います。

想像を絶する勢いで発展する中で、地域が持つ堅実なマインドが失われていくことを危惧する

同時に、この地域の様々な事業展開も非常に速いテンポで進んでいます。たとえば、名古屋でこういう商業施設があったらいいな、あるいはこういうレジャー施設があったらいいなと思うようなものが、たいてい着工していたり、既に完成していたりしています。最近ではイタリヤ村もできましたし、土岐のアウトレットモールもできました。ものすごく早い勢いで中部は変化しております。

そのようなことで中部は非常によくなってきているのですが、このようにどんどんテンポが速くなって、この地域が国際化していく中で懸念する大きな問題があります。それは、この地域の人々の心の持ち方というか、これからどういうマインドを持ってやっていくのかということです。これまで、モノづくりで地道にやってきて、おそらく地元の人々は、国内外から注目されるようになるというようなことは予想もしなかったし、こういうことを期待してモノづくりで励んできたわけではないと思うのですが、それが今このような状況になっています。

これから先、地元の人々がどうやって心のバランスを取っていくべきか、どういう気持ちを持

っていけばいいかということが、提言の中で触れられているといいのではないかと思います。

### 水谷 研治 委員（中京大学理事・大学院教授）

本提言は50年、100年先を見据え、焦点の定まったものとしてまとまっている

結論から申しまして、大変よくできたという具合に思っております。中味といたしましても、50年、100年先の将来を考えるという点はきちんと基本に据え、「安全で安心な暮らし」というものが将来に渡って極めて重要であるという認識のもと、それを実現する社会資本の充実を図るということで、はっきりと焦点も定まっていると思います。

行政の100年計画は、きめ細かさよりも重要な骨となる部分を見誤ることなく推進すべし

課題であります、すでにご意見が出ておりますように、すべてができるわけではございませんから、選択と集中が必要であるとはっきり謳われております。この中でも特筆すべきものは何かということにつきましては、今後考えていかなければいけないことだとは思っておりますが、そのときに住民が願うことはたくさんございまして、それに対して行政がどう対応していくかという根本的な問題がございます。

何もかも行政がやってくれると一番便利なのですが、そうはいかないというのが基本にございます。それではどうするかといいますと、個人でやれることは個人でおやりください、地域でやれることは地域でおやりください、どうしても国全体としてやらなければいけないこと、地域全体としてやらなければならぬことだけおこないますということになります。

一方、行政は、地域全体、国全体としてやることについても「きめ細かく」ということをよく言うのでありますが、これは嘘であると思います。きめ細かくできるはずがない。ですから、「きめ細かくやらない」ということが重要なのでありまして、きめ細かいのは住民たちが協力して、あるいは個人がやるべきであって、個人がやる意欲がないことについてきめ細かいことを要請されずと選択と集中ができなくなってしまう。

したがって、これは100年の計画なのでありまして、粗く重要な骨っぽいところだけを推進し、きめ細かいことはやらないという姿勢が重要だと思います。そうしないと、小さなことばかりやっております、大きなことができなくなってしまう。こういうことでは、50年、100年後に振り返ったときに大変な禍根を残すと私は思っております。

目先のことに翻弄されぬよう、選択と集中、役割分担を明確に示すことが肝要である

今日我々があるのは、先人たちが非常に大きな目で、しかも将来を考えてやったことの恩恵を蒙っているからである。目先のことをやった場合、そのときにはプラスになるかもしれませんが、後々になって意味のないこともあります。

そういうことになっては困るものですから、個人の役割、地域の役割というものをしっかりと打ち出し、本当に必要なものは粗っぽくやっていくのだということを明確に示すことが必要です。それが選択と集中の中味であろうと思います。もしそういうことが書いてないようでしたら、そういったことを付け加える必要があるのではなからうかと思っております。

国・地域双方にとって重要な社会資本を確実に整備することが最優先課題

骨太の選択と集中と申し上げましたけれども、結局何が一番重要なのかといいますと、社会

資本の充実として、途中までできている第二東名、第二名神をできるだけ早めを実現することではなかろうかと思えます。それから、中部国際空港の滑走路の延長あるいは2本目の滑走路を早期に整備するということがトリア新幹線の実現も重要です。このようなものは、相当に大きな国家事業ですが、地域にとっても非常に重要なものであり、これをどう実現していくかというのがこれからの課題であると思えます。

#### 国際化の中で、インターナショナルスクールの質的な向上が必要ではないか

今後、海外からこの地域を訪れ、この地域で生活する人が増えようとしている中で、名古屋はインターナショナルスクールの数が少ない状況にあります。けれども、数よりもむしろ中味の充実をしないと、海外から訪れる人にとって大変不都合であるという現実がございます。このようなことについても、社会資本の充実とともに対応が必要であると思えます。

### **水尾 衣里 委員（名城大学助教授）**

#### 提言に続けて、間髪入れずに目に見える形で具体的な行動を起こしていくことが重要

この提言を打ち出した後、間髪入れずに、次のステップを具体的にどのようにしていくのかを随時見せていくことが必要ではないかと思えます。そこで4点ほど述べさせていただきます。産業の国際競争力向上に向けて早々にワーキンググループを立ち上げてはどうか

まず1点目、産業の国際競争力を高めるための整備ということが書かれていますけれども、具体的にどういうふうにしていくのか。他省庁、たとえば経済産業省との連携等も含めて、どのような形で行なっていくのかということ、ワーキンググループを立ち上げるというような目に見える形で行動に移してほしいと思えます。

#### 万博開催地の責務として伊勢湾の再生に向けた多面的なプロジェクトを

2点目は、万博を経験した地域として、環境とか循環型社会に見合った伊勢湾の再生、本当の豊かな海の再生ということを念頭に、多面的な取り組みを行なうことを具体的なプロジェクトとして立ち上げることを期待します。

#### 自治体の横断的な連携を図り、災害発生時の迅速な体制を確立すべき

3点目は、防災についてですが、現代社会の中であって、アメリカにおいてさえカトリーナの被害のようなことが起こる。新しい社会であるがゆえに、過去とは違った形で情報格差であるとか新しい問題が災害時にも起きているということを私たちは学んだわけです。現在、防災に対しては自治体ごとにやっていることが大変多いのですけれども、被災した場合には当面、近隣の自治体の援助が必要になってくるかと思えます。特に、阪神大震災でもありましたように、震災当日、全体の2~3割くらいの人しか登庁できなかったということがあります。そういう事態が起きた場合に、周辺地域との連携によってある程度の手助けができるのではないかと考えてみると、自治体ごとに規格が違ったりシステムが違ったりということが大きな障害になってくるかと思えます。ですから、そういうことも含めた対応策を考え、しっかり検証していくことを次の段階としてすぐに着手すべきであろうと思えます。

#### 新たな圏域形成に向けて議論を始めていく必要がある

4点目は、課題の中にあります「新たな圏域の認識」についてですが、これについては国の



形を新しくしていく中で最も大事な枠組みを作るといふ仕事だと思いますので、できるだけ時期を早く、場合によっては北陸や近畿の方たちも含めた形で議論を始めていくべきであると思ひます。

### 松尾 稔 委員（（社）国立大学協会専務理事（財）科学技術交流財団理事長）

#### 今後減少基調に向かう中で、縮小こそ新たな美しい発展への道ではないか

前回申し上げましたように、「選択と集中」これをいかにしてこれから実行していくかというこゝを、ロードマップ的にでも示していく必要がある。理念とか、その根底にある視点、あるいはその計画内容を実際に行動に移すためには、これらを短く表現するようなキャッチフレーズこそが有効だということも前回申し上げました。その後、私なりにキャッチフレーズを考へておりました。参考のために申し上げますと、「複数拠点から成る、真に豊かな地域、豊かな中部」というものです。「真に豊かな」とは、もちろん物心ともに文化も全て含めたものを意味します。サブタイトルとして、「縮小」という言葉を添えたい。これまで我々は、「膨張拡大こそ善」ということで戦後どんどんやってきたわけですが、これからは人口一つ取っても縮小していくということを念頭に置き、「縮小こそ新たな美しい発展への道」というサブフレーズを考へました。今後、キャッチフレーズとして相応しいものを掲げて、実行に移していくことが非常に大切だと思っております。

これまでは物理的にも量的にも拡張ということこそ善であった。今後は、人口が減り、労働力も減ってくる。「縮小」という言葉がいいか悪いかわかりませんが、物理的な減少局面に向かうということは否めません。けれども、これは生活レベル、経済レベルを下げなさいということではなく、減ってくるということをきちんと念頭に置いて、地域づくりのあり方や生産性の向上といったことへつなげていくというところに新しく美しい発展があるということだと思ひます。

#### 読み手のことを考へてできるだけ平易な言葉を用いる方がよい

今回の提言書では、あまりにも色を使い過ぎて、かえって見にくくなっているという気がいたします。そして、用語については、これを読んでいただく対象者のことを考へて、できるだけ易しい用語を使うことが大切ではないか。用語をきちんと定義をしておくなら、それはそれでいいと思ひますが、たとえば「ロジスティクス・ハイウェイ」とか「ロジスティクス・ハブ」とか、「リーディングプロジェクト」といったカタカナ語が多用されています。「ロジ」という言葉は、相当な専門家しかわからないのではないかと思ひます。

#### 将来の最大の課題は水の問題。広い見地に立って真剣に取り組む必要がある

それから、今世紀最大の課題として水の問題があると思ひます。提言の中にも、主として災害に関して水に関することが記述されていますが、水の問題に対して、次の段階ではもう少し踏み込んだものが出てくるといいのではないかと思ひます。たとえば愛知用水に関して言えば、今年も牧尾ダムも岩屋も渇水になっていると盛んに報道されている通り、断水も度々起こります。周辺市町村が水不足で節水しましょうと言っている一方で、名古屋市は木曾川から取水する水利権を持っていますので、節水しなくても生活できるようになっています。このような水

利権云々の問題は全国的な問題ですので、やはり国交省あたりが広い見地に立って、水の利活用ということを実際に取り組んでいかないことには解決されないと思います。

境界条件となる諸条件を明確にした上で、具体的に優先順位をつけて実行に移すことが肝要である

今後、優先順位をつけて具体的に実行していく際には、境界条件を明確にしていくことが必要です。人口が減少するという話が出ていましたが、これは当然生産力にも関係してきますし、女性の出生率といったものなどともいろいろ関連がある。国際的な問題も含んでいきますので、そういう境界条件を明確にしつつ、次の段階へと進んで行かなければならないのではないかと思います。

### 東 恵子 委員（東海大学短期大学部教授）

ビジョンをいかに市民に訴えかけ、理解を求めていくかが、実現に向けた大きな課題ではないか

この提言のとりまとめ、数々のアンケート調査や地域ごとの意見を網羅した形で、質実剛健な中部地域の次のビジョンとしてイメージアップできたのではないかと考えております。そういう意味では、先ほど来、各先生方がおっしゃるように美しくまた骨太な計画になったと思っております。

一方で、以前おこなわれたアンケート調査の中では、中部地域の人たちは、他地域の人々に比べて、生活している中であまり満足感を実感していない割合が多いという結果がございました。そのような中で、どのようにして市民の方々にこの素晴らしいビジョンを訴えていくのか。それぞれの役割分担をどのように理解していただくかが一番の大きな課題であると思います。ビジョンはよくできあがっても、実際にどのように実現していくのかということが問題です。具体的な取り組みにおいては、他地域との連携をしっかりと図っていくことが重要である

圏域の問題が課題として出ていますが、中部地域としての方向性がこのようにはっきりと出てきたときに、やはり地域ごとの連携というのでしょうか、このビジョンをどう情報発信し、何を役割分担するか。特に防災や観光など発展的な施策が組まれる中で、地域の連携は不可欠だと思います。基盤的なことに関するものとソフト的なものと2通り出てくるとは思いますけれども、この辺の連携は相当にしっかりやっつけていかなければいけないのではないかと感じている次第でございます。

景観の整備は環境に対する市民の理解を目に見える形で訴えかける重要な糸口

地域らしさを求めて特徴ある景観ということを見ると、どうしてもそれぞれ個性的な形で進めようということになりますが、一方で、それぞれの地域が連携することによって情報を共有したり、観光ルートとして組み立てるといったことが必要であろうと思います。

景観というものは、環境に対する市民の理解を目に見える形で訴えかける最初の糸口になってくるとは思います。そういった点で、電柱の地中化というようなことと併せて、ぜひ屋外広告物のコントロールや沿道の緑地整備ということにも取り組んでいくべきだと思います。私たちが生活する中で美しい景観を体感するというのが、やはり地域づくりの原点ではないかと思

います。看板が乱立してしまっているところや殺風景でただ走るだけの道路になってしまっているような所が多々あるように思います。そういったところについて、できることから整備を進めていただきたいと思いますと思っている次第です。

### 中村 幸昭 委員（鳥羽水族館名誉館長）

万博が成功したと驕ることなく冷静に検証し、ポスト万博を真剣に考えることが重要である

愛・地球博が終わりましたが、万博協会をはじめ名古屋の方々、マスメディアの多くは皆「成功」と言っておりますが、私は醒めた見方で冷静に見ております。

35年前の大阪万博は6,422万人が来場した。2010年の上海万博はすでに8,000万人を見込んでおります。もちろん人口規模も違いますので一概に比較する話しではございません。

問題は、万博期間中に熱中症で倒れた人はどのくらい出たのかといった舞台裏のことも冷静に判断をしなければいけないと思います。事実、大阪万博でもたくさん死者が出ているのです。

たとえばマンモスについては、グローバルハウスに1、2時間も並んで、見る時間は動く歩道でたったの1分で終わりです。あのマンモスは、実際には上半身だけのものなのですが、下半身が付け加えられたかたちで展示されている。このため、その姿が完全な標本だと見学者に誤解を与え、学術的価値はほとんどないといえます。このようことがまかり通っていて、万博は全て成功したといえるのか。それは違うと思います。

また、内覧会に行きましたときに、お母さんが赤ちゃんを抱えて泣いていました。おしめを替える場所がなく、女性トイレには長蛇の列ができています。万博協会に女性の代表が入っていなかったのかと首を傾げざるを得ない。当初から女性のトイレを8割、男性を2割にすべきだとぼくは言っておりました。お弁当の持ち込みについても然りです。レストランに並ぶと高く、まずい。子供たちがお腹をすかせてベソをかいている。こういう面では完全に失敗ではないかと思えます。

外国パビリオンは全部で120ヶ国が出展したと言っていますが、これは名前ばかりで、展示はほとんどありません。ほとんどが売店として土産物を売っている。これではバザールじゃないか。あのような状況で万博と言えるのかとぼくは言いたい。

したがって、名古屋の方も万博協会も決して驕らずに、冷静に判断して、ポスト万博を考えなければいけないと思います。

旅客・物流両面からさらなる名古屋港の強化が必要

陸海空の交通アクセスの問題として申し上げたいのでありますが、かつて神戸港はアジアのトップのコンテナ取扱量を誇っていました。けれども、あの阪神淡路大地震以来、上海に座を奪われて挽回できていません。名古屋港においては、これから豪華客船のクルージングが増えると思います。そして、コンテナ基地も物流関係で需要が増えると思います。そういう点から港の整備をもっと進めないといけなんでしょう。

リニア新幹線が実現した際の名古屋の発展戦略を考える必要がある

陸上交通は道路網の整備が進むでしょう。けれども、何よりも大動脈として東京・大阪間500kmを1時間で結びリニア新幹線が整備がされることでしょう。そのときに、東京・名古屋間

は40分、名古屋・大阪間は20分ということになりますから、移動時間が短縮されたときに、東京・大阪の中間点にある名古屋が今後どのように展開できるかというビジョンを作らなくてはいけないと思います。

#### セントレアをハブ空港として機能させるためには、滑走路の延伸と2本目の滑走路整備が必要

中部国際空港の審議会メンバーとして参画した折りに、「新空港にはぜひマッサージルームやエステ、展望風呂を作ってくれ」というアイデアを申し上げましたが、それが実現できました。その結果、開講後1年間の利用者目標をわずか半年でクリアしました。

セントレアをハブ空港として位置づけるのならば、3,500mの滑走路を4,000mに延伸すべきであるし、滑走路をもう1本増やして2本にしなければ、国際競争力という点で負けであるというのが私の持論であります。

#### 今後増加するであろう訪日外国人への対応を様々な面から取り組む必要がある

今後、日本の人口はどんどん減少しますので、モノづくりの拠点としての中部圏には外国人、特に中国をはじめ韓国、台湾といったアジアや南米からの労働者が多数入ってくるだろうと思います。そういった外国人への対応を十分に備えておく必要があるのではないかと。言葉の問題のみならず、いろいろな風習の違い、地域住民とのコミュニケーションの問題もあると思います。また、犯罪面のこともあります。それらのことを十分に考慮していく必要がある。これは政府全体の責任であり、外国人の受け入れは、いい面、悪い面、一長一短あると思いますが、そういうことへ対処すべき時が来たと思います。

#### 万博によって海外から中部へ来訪してもらったことは今後の交流拡大につながる大きな功績である

先ほど愛地球博の欠陥をいろいろ申し上げましたが、メリットもあったということをつけ加えます。それは、名古屋は元々外国人との往来が非常に少なかった街であったろうと思いますが、愛地球博で外国人の往来は増えました。万博協会の当初、総入場者数の10%は海外からの来場者であると予測しておりましたが、実際は総入場者数の5%程度に過ぎず予想より少なかったといえますが、たとえばサウジアラビアとかパキスタンなど、万博があって初めて名古屋に来たという方が圧倒的多数でした。

この人たちをリピーターとして、名古屋はいい所だということで、どんどん工場見学なり、富士山を見に来るとか、京都、東京へも行ける拠点としてセントレアを活用してもらえば、これは大きなメリットであったといえるのではないかと思います。

### **小笠原 朗 委員（日本政策投資銀行東海支店長）**

#### 我が国の経済を牽引する中部におけるビジョンの方向性は、経済力の維持発展・モノづくり産業の発展が主軸となるべき

地域のあり方はいろいろあるかと思いますが、東海地域は言うまでもなく日本経済の牽引役であります。そう考えますと、今後のビジョンの方向性も、やはり一番大事なことは経済力の維持発展や地域経済の自立性の維持、そのためのモノづくり産業の発展といったところに尽きるのではないかと思います。

まさにメインタイトルに「中部のモノづくり」ということが謳われているわけでありまして、そういう意味では、これの作成に関わった皆様の思いは私と同じところにあるのではないかと考えているわけでございます。

今後、このビジョンを外向けに発信していかれると思うのですが、この地域の経済自立とか、そのための新しい産業集積を作るといふようなところが一番最終のゴールにあって、そのためには国内外の交流の拡大が必須なわけですし、それをさらに実現していく上で地域の安全・安心とか信頼性の実現でありますとか、あるいはそのための充実したインフラの整備とか、そういったものが必要になると考えられます。

このような流れをさりげなく、かつ強くアピールをしていくと、よりわかりやすさが出てくるのではないかと思います。

提言に提示した課題を解決していくための具体的なアクションを次なる一手として打ち出すべき

提言の最後に課題が提示されたわけでありまして、この課題を解決していくために誰に対して、どういう働きかけをして、あるいはどういうスケジュールでやっていくのかということを示していくことが大切です。そこまで提言に織り込むことは難しいとは思いますが、そういったアクションを間髪入れずに打つことが、せつかくのビジョンをより有効に活かすために一番大事なことではないかと思います。

万博をはじめ中部地域において成功している要因を将来に向けたビジョンに活かせるとよい

「万博の理念の継承」ということが記載されていますが、なぜ万博は成功できたのか、なぜこれだけの人が集まったのか。万博のみならずセントレアや最近開業したイタリア村、土岐のアウトレットなどにおいても非常に人出が多いわけでありまして、なぜそうなのかということ进行分析し、そういった成功要因を50年先に向けたビジョンの発射台に織り込んでもいいのではないかと感じています。

### **奥野 信宏 委員（中京大学教授）**

中部地域は世界有数の産業集積を維持発展させながらアジアをリードしていくことが期待される

この地域は、首都圏以外では地方圏としては日本では稀有だと思いますが、経済的に自立した圏域だと思います。ここ半世紀の展開過程を見ていると、リーディング産業が成長し、10年か20年すると衰退していくのですが、衰退すると必ず次のリーディング産業が育ってきて、絶えず日本をリードしてきたということがいえると思います。

中部地域は既に世界有数の産業集積地になっており、これを維持発展させながらアジアをリードしていくことを目指していくべきだと思います。そういう意味で今回の提言は、環境、技術、交流といったキーワードで、すでに蓄積があるもの、これからやらなくてはいけないことが非常によくまとめられていると思います。

世界メッセの実現については既に動きが見られる

感想めいたことを申し上げますと、1点目は、15ページに「世界メッセの実現」と書かれて

おりますが、名古屋商工会議所では「環境と調和に向けての世界メッセをやっていく」ということで既に事業に着手しておられますので、そのような動きも踏まえた表現にするといいいのではないかと感じました。

#### 近い将来、中国においてもいずれ量的な拡大の転換点を迎えると考えられる

2点目は、中国のGDPが今後約40倍にまで発展するということですが、中国の今の発展が始まったのがいつ頃からかということを考えますと、恐らく1985年くらいではないかと考えられます。そうすると、2010年代には、中国が経済発展を始めて30年近く経つわけで、生産年齢人口もその頃には中国もピークアウトしてしまうのではないかと考えられます。したがって、中国においても量的な拡大の転換点を迎えるだろうと思います。今のままで成長率がずうっと伸びていくという話では決してないだろうと思います。

ただし、日本が危機意識を持つという意味では、このような表現の仕方もいいのかと思います。

#### 「国際的に目標とされるようなトップクラスの教育研究機関等の創設」という表現は、積極的でよい

3点目としましては、13ページに「国際的に目標とされるようなトップクラスの教育研究機関等の創設」と書かれておりますが、「創設」という表現は、大学にとっては非常に厳しいな表現ですが、いい言葉ではないかと思えます。既存の教育研究機関に甘んじることなく、新しいのを創っていかうということをごさいますて、辛口でいい表現ではなからうかと思えます。

### **須田 寛 座長（東海旅客鉄道（株）相談役）**

先ほど来いただいたご意見の要約を申し上げたいと思いますが、計画全体に関わるものと計画の実行に関わるものと、大別して2つご意見があったように思います。

#### きめ細かさよりも重要な骨となる部分を見誤ることなく推進すべし

計画全体に関わる意見として、重要な柱を計画では立てるべきなのであって、細かな問題についてはこれを実行する市民とか住民の良識、判断に委ねるべきなので、柱を間違いなく掴んで書くべきであるといったご意見がございました。

#### 地域の心、地域のブランドを大事にすべし

それから、地域のブランド、ないしは地域の心といったものを大事にしなければいけないし、そういったことを念頭に置いた表現が必要ではないかといったご意見がございました。

#### もう少し突っ込んで言及すべき問題がある

具体的な指摘ではございますが、たとえば水の問題や拠点の問題、景観の問題についてもう少し突っ込みがあるのではないかというご意見、さらには、他の地域も含めた連携と整合性を図っていくことが必要ではないかといったご意見がございました。また、カラーが多く少しけばけばし過ぎるとか、カタカナ用語が多いといったご指摘がございました。

全体については以上のようなご意見であったかと思えます。大方は評価していただけたということと、「美しい計画である」というお言葉をいただけたことについて御礼申し上げたいと思います。

### 提言に掲げたビジョンをいかに実行に移すかが重要な課題

次に、具体的な実行に関するご意見でございますが、やはりこれから大事なことは、これをいかに実行するかであることは言うまでもないと存じます。そのためにどんなことが必要かということについて、幾つかのご意見がございました。

1つは、具体的な実行に向けてロードマップあるいは具体的な実行計画を速やかに作っていくべきであるといったご意見がございました。特に国際競争力とか伊勢湾の問題とか防災について痛感するというところでございました。それから、施策を推進させる上では、拠点の整備があるのではないかと、たとえば前島の整備などはその一つの具体例だというお話がございました。

また、産官学の役割分担あるいは地域住民との役割分担ということも含めて実行に向けた役割分担が必要ではないかといったご指摘もございました。

一方で、実行に関わる境界条件というものをはっきり詰めていく必要があるのではないかと。また、全体の施策の流れというものを掴めるように考えながら実行していくべきではないかというご意見があったと思います。

### 万博の成果と反省を踏まえるとともに、減少局面を的確に捉えて計画を実行せよ

実行に当たっての留意点でございますけれども、今回の万博の成果と反省点、特にマイナスの面も十分考慮し、その分析の上に立ってこれからの計画を作り、かつ実行する必要があるのではないかとご指摘がございました。

キャッチフレーズ的に表現するならば、「複数拠点からなる真に豊かな地域を作ること」、そして、「縮小こそ美しい発展の道である」といったお話がございました。ここで言う「縮小」とはもちろん前向きな意味での調整という意味であろうかと思えます。

### 「万博の心を中部にいつまでも」という思いを共有し、新たな中部元年のスタートを切りたい

冒頭に申し上げましたように、万博がございました。これがやはり、中部元年を形成するにふさわしい行事であったと思います。いろいろ問題はあったといたしましても、まずまず成功裡に終了した。ちょうどお正月で言いますと中部元年の三が日が終わったというところ。今日が御用始めでございます、この場で今後の施策について皆様にご議論いただき、これを発表して、いよいよ今年から中部元年がスタートするということではないかと思えます。

「万博を心の中にいつまでも。万博の心を中部にいつまでも」これがこの施策の一つの基本でございますし、それを貫く一つの理念は万博の理念であった環境であり、それが産業なり交流につながっていくというのが今回のビジョンではなかったかと思えます。

このようなことを皆様方とともに思いを共有いたしまして、情報を共有いたしまして、これから情報の発信に努めてまいりたいと思えます。

一応の議論はこの程度としまして、本日は締めさせていただきます。以上

以上